

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	※説明内容は別紙資料のとおり。以下、質疑応答の部分を記載。 〈テーマ１：スポーツの振興〉 ・海洋センタープールは平成3年建設から30年以上が経過し、配管等の老朽化が深刻。義務教育学校の整備に合わせて現地改修か移設かを含めた計画的更新の検討が不可欠である。 ・スポーツ地域移行（部活動の地域クラブ化）に際し、国が認定する地域スポーツクラブの認定要件として指導者リストの提出・審査がある。公認資格保有者がいることが補助の要件となるケースもあり、指導者の公的資格取得支援の継続が重要である。体罰・ハラスメント対策も含めた指導者の質向上が不可欠。 ・地域クラブは選抜を行わず誰でも参加できる体制が認定要件の一つ。弓道のような競技が地域移行の最初の事例となったが、適切な指導者確保・クラブ運営体制の構築が課題。バスケット・バレーなど競技人口の多い種目から順次、持続可能な形で地域移行を進める方向性を確認した。 〈テーマ２：高等学校〉 ・中学校卒業生約100名のうち美幌高校への進学者が40～50名程度にとどまる現状は深刻。地元の中学生が美幌高校を選ばない理由の分析と根本的な対策が必要である。 ・義務教育学校（小中一貫）の整備により、9年間の一貫教育の中で高校進学への意識づけを小学校段階から行う連続的な取り組みが可能になる。高校との接続を計画に明確に位置づけることが重要である。 ・美幌高校について、農業は昔のような力仕事というイメージからデジタル技術を活用したスマート農業にシフトしつつある。国全体として、スマート農業の推進に向けて取り組んでいる状況もあるので、そのことをうまくPRし、魅力発信につなげることが重要と考える。 ・教育課程や時間割の兼ね合いもあると思うが、普通科と農業科を行き来し学習することはできないか。どちらも自由に学べるのが魅力につながるのではないかと考える。 ・現在、美幌高校については道立高校ではあるが教育委員会が所管である。ただ、高校生が少なくなる、どうすればよいかといった検討は地方創生に資するものもあると考えるため、政策推進課に所管替えしてみてもどうか。その方が、魅力化コーディネーターを配置すると考えた際、地域おこし協力隊を配置しやすかったりなど、メリットがあるのでは。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	・地域おこし協力隊を活用して公設塾を開設してはどうか。美幌高校の生徒が少ないのであればその分空き教室が生まれると思うので、その教室を活用したらよい。 ・北見の中学生に北見市内の高校に入学できなかった場合、どの高校を選択するか聞いたことがあり、そのときの回答に美幌高校は入っていなかった。そもそも選択しに入っていない現状にある。 ・美幌の中学生が地元の高校に入学しないのであれば、町外からの入学者を増やしてもよいのでは。寮が空いているのであればなおさら。 ・校長が変わるたびに高校の運営方針が変わることに違和感を感じている。総合計画のように、5か年の計画を策定し、校長が変わっても継続して取り組むことができれば、地域と連携して高校の魅力化を進めていけるのでは。 →学校運営協議会が学校の運営について提言することが可能と知らなかったとの声もあり。学校と運営協議会が連携することで、魅力化につながるかもしれない。 ・高校存続は入学者確保が絶対条件であり、これまでの支援策の効果検証と、より根本的な対策（例：特色ある学科の設置・魅力発信の強化・義務教育段階からのキャリア教育との連携）の検討が必要である。